

令和３年度 第３回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1. 開催日時

令和３年 12 月 23 日（木）13 時 30 分～ 16 時 00 分

2. 開催場所

中部森林管理局 大会議室（対面及び web 併用）

3. 検討内容

- （１）国有林材供給調整対策について
- （２）情報交換等
- （３）その他

4. 検討結果

管内においては、総じて高騰が続いてきた原木価格が 12 月に入り一部下落する樹種等も見られるなど、地域や樹種により値動き等に差異が見られるようになってきているが、総じて国産原木に対する引き合いは依然として強い状況にある。

こうした状況を踏まえると、管内の木材の需要動向や民有林材の供給状況、輸入木材製品の供給動向を注視しつつ、堅調な国産材需要に的確に対応できるよう国有林材の安定的な供給に取り組むことが重要である。

なお、直ちに国有林材の供給調整を行う必要はないが、夏の大雨により、本年度の国有林材の供給に一部遅れが生じている等の影響が未だ続いていることから、引き続き市場や需要者への確実な供給に努めていくべきである。

5. 委員意見等

○7 月までは丸太も潤沢に出材され順調であったが、8 月の集中豪雨と9 月のへり墜落事故により、売れている時期に丸太生産量が減少した。価格は出材量が減少したこともあり並材で5 万円を優に超えるなど経験したことのない状況となり、製品価格の交渉に苦労した。

○輸入材の価格は高止まりで推移すると想定しており、国産材を扱う業界として千載一遇のチャンス。丸太生産量も回復しているため、備蓄する必要はなく、安定した価格で供給することが重要。

○コロナ禍前は四半期毎に価格交渉していたが、現在は製品価格を見ながら毎月実施している。岐阜県内の製材工場ではスギ原木が不足しており、価格も九州・北関東の影響を受け上昇している。生産量を安定させることは木材業界の安定経営に繋がるため、生産量の拡大が課題である。

○カラマツ集成用ラミナの需要が高く原木供給が追いつかない状況。県外からは合板向けの原木供給の要請も高いが、今後は降雪の心配もあり素材生産は厳しい状況が想定される。

○丸太の品質管理を徹底すれば、もっと高く売れるかもしれない。今後は森林認証制度が大きなウエイトを占めることが予想され、認証材は国有林含め世界的水準にも匹敵するものであり、国産材にとってチャンスである。品質管理を徹底した安定供給体制の構築が重要。

○スギの需要が増加しているが供給が滞っている。量が増えれば価格が下がるという考え方は今の状況に当てはまらないため、現状の価格を維持しながら量を増やして外材から国産材に切り替わっている現状の需要を取り込みたい。

○国産材の市況が好転しており中部圏においても2～3年後に新規の製材工場の計画がある。当社でも素材消費量の増量を計画しており、将来に向けて国産製材を安定的事業に発展させていくためにも、素材の供給は重要な問題であり、先を見据えた素材の供給体制に取り組む必要がある。

○今の価格は外材の並材価格の高騰から来ているが、流通在庫がなかったため急騰した。ここ10年の動きでは、プレカット工場に流通が変化し、製材工場も直接プレカット工場に流すようになり、流通業者が在庫を持たなくなった。誰かが在庫を持たないとこの問題は解決しない。

○国有林を含め出材量が増えるのは良いが、根本的な課題として素材生産体制が整備されない限り事業地を確保しても材は出てこないため、中長期にわたり生産量を安定させることが重要。

○県産材の安定供給に取り組んでいるが、生産量が上がっていないのが現状。県全体の計画量を増やしたいが担い手不足の問題もあるため、安定供給に向けていろんな予算を活用しながら後継者の育成に努めたい。